

第16回宇宙産業・科学技術基盤部会 議事要旨

1. 日時：平成28年4月14日（木） 10：00 - 11：30

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

山川部会長、松井部会長代理、下村委員、中村委員、松尾委員、松本委員、山崎委員、渡邊委員

(2) 政府側

小宮宇宙開発戦略推進事務局長、佐伯宇宙開発戦略推進事務局審議官、松井宇宙開発戦略推進事務局参事官、行松宇宙開発戦略推進事務局参事官、高見宇宙開発戦略推進事務局参事官

4. 議事要旨

(1) 宇宙システム海外展開タスクフォースについて

資料1に基づき内閣府から説明を行った。説明の後、以下のような意見等があった。(: 質問・意見等 : 回答)

これまでタスクフォースの取組が進められてきたが、今後必要となるものは何か。例えば、制度や人材等、何が今後必要になるのか。

我が国は既に経験や技術もあり人材もいるが、継続的に知見・経験を集約していく制度や枠組みが必要である。それが検討課題である。

枠組みとしては、具体的にどのような組織として進めるのか。

継続的、実効的に進めていくためには、人材や組織としての厚みが必要であり、どのような組織とするかは課題である。

相手国から人材育成に関する希望が多いとのことだが、宇宙を大規模システムの1つとしてとらえ、幅広い科学分野の人材育成として取り組むことが必要である。

UAEの経験からは、中等教育レベルから、10年~20年の国造りの人材を育てたいというUAE側の思いが感じられた。NASA等においても様々な取組があり、我が国も幅広い教育パッケージを考えていった方がよい。

UAEのケースでは、現地大使館が重要な役割を果たしたと聞いている。こうした取組を他の在外公館、または人が代わっても続けられるような体制、仕組みの構築が重要ではないか。

長期的、継続的な枠組みについての議論は、今後、これまでの経験や本日はいただいたご意見を踏まえて検討していきたい。

(2) 射場の在り方に関する検討について

資料2に基づき内閣府から説明を行った。説明の後、以下のような意見等があった。

我が国の現有射場を整備した際と現在では情勢が異なるので、新たな情勢にどのように対応していくのかという事を検討することは重要である。

打ち上げ目的の多様性に応じて射場に対する要求事項を分けて考えるべきである。その際には、実際の現場の作業性についても配慮をするべき。

老朽化対策については、論点というよりも当然進めていくべきものである。

以 上